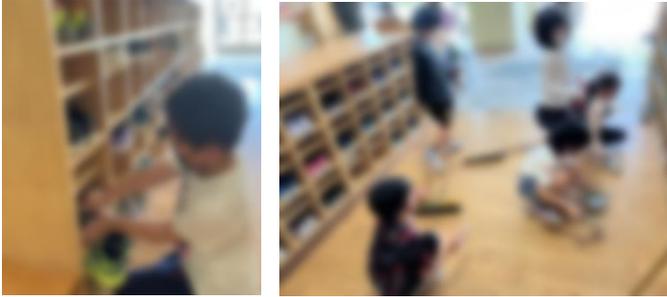


「私が掃除をする理由」

令和5年5月8日

私は、できるだけ掃除時間は子ども達と掃除をするように心がけています。主な清掃場所は、児童玄関の靴箱付近。先週まで1年生はお掃除時間がないのですが、2年生から6年生までクラスの靴箱と周辺の掃き掃除を頑張ってくれています。どの子も頑張ってくれているのですが、特に、3年1組のHさんとKさんは遠足の日も、解散後、児童玄関の各学年の靴箱周辺の掃き掃除をしてくれる程、掃除を頑張っています。



最近は落とし物が増えてきましたが、児童玄関は、自分の靴を「へり」にそろえることもあって、綺麗さをたもっています。それは、子ども達が毎日、掃除を頑張っている姿の現れです。

トイレ掃除で有名なイエローハット創業者の鍵山秀三郎さんの言葉に「いつも見ているものに、心も似てきます」の言葉があります。自分が

いる環境が綺麗であれば、綺麗な心が宿り、乱れた環境であれば、乱れた心となるでしょう。犯罪心理学では「ブロークンウィンドウ理論」というものがあります。建物の窓が割られゴミが溢れかえっている場所は犯罪が起きやすく、反対にそうでない場所は犯罪率が下がることが分かっています。「心」と「環境」は有意に結びついているのです。先生方の子ども達への掃除や整理整頓などの指導ありがとうございます。前任校のことで恐縮ですが、朝会で「掃除の話」をした後、当時の6年生が日記に以下のようなことを書いてきました。「一人ひとりが与えられた役割の掃除をしっかりとすることで、学校が綺麗になる。学校が綺麗であれば、人々がいい気持ちになる。そう考えると、綺麗にすることは『掃除という思いやり』である」と。何て



ステキな感性・考え方なのかと感心しました。そうなんです。掃除は思いやりなのです。梶山さん（「凡事徹底」でも有名です）は、最初に入った自動車業界の会社が汚く、これでは車が売れないだろうと思い、まず、綺麗にすることからスタートします。その後、独立した後も社長自ら掃除をしますが、社員が率先して掃除をするようになるまで10年かかったそうです。時間はかかりましたが、会社が綺麗になったことで社員も明るくなり、社員のサービスが向上し業績がアップしたそうです。「いつも見ているものに、心も似てきます」の言葉は、実体験に裏打ちされた信念だったのです。その鍵山さんの言葉は、私達教職員や大人が肝に銘じ、掃除や机の上や中の整理整頓など、小さく地味なことだけれど、丁寧に指導し「率先垂範」したいものです。鍵山さんの言葉で私がドキッとさせられた言葉が次の言葉です。「足元のゴミひとつ拾えぬほどの人間に何ができますか」です。人格を見抜かれた感じがして恥ずかしくなりました。子ども達に伝える指導の言葉。掃除でも思いやりでも、一生懸命することの大切さや努力をすることの素晴らしさを語るとき、自分がどれ程の人間なのか。子ども達の前に立つ者として、小さく地味なこと、人としての当たり前前のことを当たり前に行うこと。そういった私たち大人や教師の姿勢や姿が子ども達を育てるのだと思います。「こんな子どもに育てたい」と思ったら、思った〇〇なことを率先しましょう。

与那原東小学校の子は、私が見ている限り、掃除を頑張っています。その頑張りには、私達が気づかない、その子なりの工夫や努力が秘められているかもしれません。その秘められたことに気付かされた時、私達も子ども達から学ぶことがあると思います。そして、子ども達に「ありがとう」の感謝の言葉を伝えましょう。私は、東っ子に誇りとなるものを作りたいと思っています。そのうちの一つが「掃除」です。みんなで頑張ってお掃除日本一を目指しましょう。奇跡は、思い願うことから始まるのです。

